

# 2023年度 通期決算

富士電機株式会社

2024年4月25日

皆さんこんにちは、経営企画本部の荒井でございます。私から2023年の決算についてご説明いたします。

1. 2023年度 実績（対前年）	P. 3
2. 2023年度 実績（対1/31予想）	P. 12
3. 貸借対照表・キャッシュフロー計算書	P. 14
4. 剰余金の配当	P. 17
5. 補足資料	P. 19

# 1. 2023年度 実績 (対前年)

# 通期 連結業績概要（対前年）

## 売上高、営業損益、営業利益率、経常損益、純利益は過去最高を更新

	(単位：億円)			(単位：億円)
	2022年度	2023年度	増減	
売上高	10,094	11,032	938	売上高増減
営業損益 (営業利益率)	889 (8.8%)	1,061 (9.6%)	172 (0.8%)	海外子会社の為替換算差による増収 +242
経常損益	878	1,078	200	需要増 +696
特別損益	79	62	-17	営業損益増減
税金等調整前 当期純損益	957	1,140	183	物量・生産増 +265
法人税等	271	320	48	固定費増 -204
非支配株主に帰属する 当期純損益	73	67	-6	為替影響 +44
親会社株主に帰属する 当期純損益	613	754	140	その他* +67
				+172
				*コストダウン、価格変動、機種構成差等
				営業外損益増減
				金融収支 ( -5 17 → 12)
				為替差損益 ( +36 -11 → 24)
				その他 ( -2 -17 → -19)
				( +28 -11 → 18)
				特別損益増減
				投資有価証券売却損益 ( -31 99 → 69)
				その他 ( +13 -20 → -6)
				( -17 79 → 62)

	(単位：円)		
	2022年度	2023年度	増減
(期末レート：3月末)			
US\$	133.53	151.41	17.88
EURO	145.72	163.24	17.52
RMB	19.42	20.83	1.41
(平均為替レート)			
US\$	135.47	144.62	9.15
EURO	140.97	156.80	15.83
RMB	19.75	20.14	0.39

まず対前年のPLです。想定を上回る決算で、売上高、営業損益、経常損益、純損益で、過去最高を達成することができました。

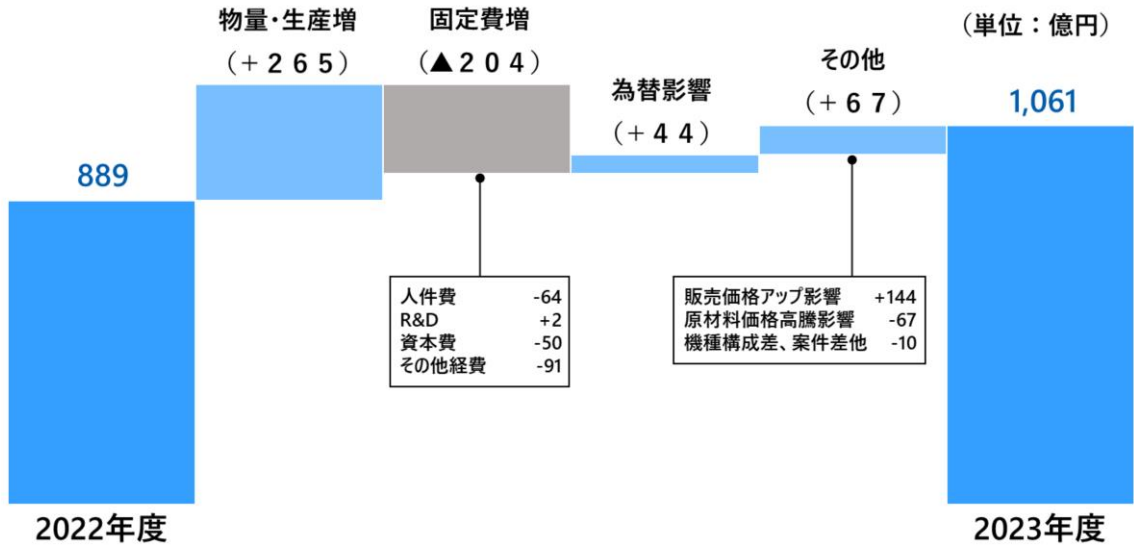
売上高は938億増の1兆1,032億、為替で円安の影響が242億あり、需要増は696億です。営業損益が172億増の1,061億、前年に対して19%のアップとなりました。

営業損益率も9.6%ということで、前年に比べて0.8%アップです。営業外損益は、金融収支が政策保有株式が減っておりマイナスの5億、為替差損益で36億のプラス、トータルで営業外損益はプラスの28億になっております。

経常損益が200億増の1,078億、特別損益がマイナス17億の62億です。特別損益は、投資有価証券の売却損益が前年99億あったものが69億に減ったということで31億の減、これが主因でございます。

当期純損益については140億増の754億ということで、前年に比べて23%の増になりました。

原材料価格高騰や人件費等の固定費増による悪化影響があるものの  
物量・生産増や販売価格アップ等により増益



営業損益の階段グラフで要因を説明いたします。

物量生産増ということで、主に半導体の電装分野、施設電源、変電システム、ファクトリーオートメーション、店舗流通などの生産増、売上増で265億のプラス、一方固定費の方が増え、人件費64億、資本費は半導体主体で50億、その他で91億あります。事業の進展により、管理可能経費、外部委託費などが増えまして、トータル204億の経費増、損益的には204億のマイナスになります。

為替が円安で推移し、44億のプラス、その他で67億プラスとなりました。原材料価格の高騰の影響67億と案件差等でマイナス10億、それらをカバーして販売価格に反映できたということで144億プラスでした

## 通期 セグメント別売上高・営業損益（対前年）

### 全セグメントで増収増益、営業利益率8%超え

（単位：億円）

	2022年度			2023年度			増減		
	売上高	営業損益	営業利益率	売上高	営業損益	営業利益率	売上高	営業損益	営業利益率
エネルギー	3,333	286	8.6%	3,428	301	8.8%	95	16	0.2%
インダストリー	3,698	268	7.2%	4,199	343	8.2%	501	75	0.9%
半導体	2,062	322	15.6%	2,280	362	15.9%	218	40	0.3%
食品流通	953	44	4.6%	1,073	88	8.2%	120	45	3.6%
その他	598	37	6.3%	632	43	6.8%	34	6	0.6%
消去または 全社	-549	-67	-	-579	-76	-	-30	-9	-
合計	10,094	889	8.8%	11,032	1,061	9.6%	938	172	0.8%

※2022年度実績は、2023年度の旧発電プラントの事業組替の数値を反映しています。

セグメント別に売上・損益を比較しております。全ての分野で売上、営業損益ともにプラスでした。

営業損益率は全て8%以上、特に半導体で16%弱といった損益率を達成し、トータルで9.6%の営業損益率となっております。

# 通期 セグメント別概況① (対前年)

(単位：億円)

		2022年度	2023年度	増減	概況
エネルギー	売上高	3,333	3,428	95 +69*	<p>発電プラント 減収減益 (12%減収) 前期の再生可能エネルギー大口案件の影響等により売上高は前期を下回りました。営業損益は、売上高の減少及び大口案件の費用増により前期を下回りました。</p> <p>エネルギーマネジメント 増収増益 (17%増収) 太陽光発電向け大口案件の減少があったものの、産業向け変電機器及び電源機器の大口案件の増加等により、売上高、営業損益ともに前期を上回りました。</p>
	営業損益	286	301	16 +8*	<p>施設・電源システム 増収増益 (15%増収) データセンター及び半導体メカ向け案件の増加により、売上高、営業損益ともに前期を上回りました。</p> <p>器具 減収減益 (10%減収) 機械セットメカ及び半導体製造装置関連の需要減少等により、売上高、営業損益ともに前期を下回りました。</p>

\*為替影響

※2022年度実績は、2023年度の旧発電プラントの事業組替の数値を反映しています。

セグメントの内容についてももう少し詳しく説明をいたします。

エネルギー部門では、売上高は95億増の3,428億、営業損益が16億増の301億でした。4部門のうち、良い部門が二つ悪い部門が二つあります。

悪い部門の一つが発電プラントということで前年に大口案件があった関係で、売上減、損益も減ということで、これは損益的には大口案件の費用増もあり、対前年大幅減になりました。

もう一つの悪い部門は器具分野。機械セットメーカー、半導体製造装置の市況が国内外で低迷しており、ここも大幅に売上・損益とも対前年減になっております。

良い部門は、エネルギーマネジメント、ここが大幅に増収増益でした。産業向けの変電機器が国内で大口案件が取れた。米国の電源機器でも大口案件が取れたということもあり、売上損益ともに好調に推移しました。

施設・電源システムも大幅に増収増益でした。データセンター向け、半導体メーカー向けの案件が増加。とりわけ海外の子会社が大幅に増収増益となり、事業に貢献をしています。

## 通期 セグメント別概況② (対前年)

(単位：億円)

		2022年度	2023年度	増減	概況
インダストリー	売上高	3,698	4,199	501 +75*	<p>オートメーション 増収増益 (9%増収) ファクトリーオートメーションにおけるコンポーネントの生産増を主因に、売上高、営業損益ともに前期を上回りました。</p> <p>社会ソリューション 増収増益 (22%増収) 原子力関連機器案件や放射線機器案件の増加等により、売上高、営業損益ともに前期を上回りました。</p>
	営業損益	268	343	75 +11*	<p>設備工事 増収増益 (23%増収) 空調設備工事の大口案件等により、売上高、営業損益ともに前期を上回りました。</p> <p>ITソリューション 増収、利益同水準 (15%増収) 大口案件等の増加により、売上高は前期を上回りましたが、営業損益は案件差等により前期と同水準となりました。</p>

\*為替影響

※2022年度実績は、2023年度の旧発電プラントの事業組替の数値を反映しています。

続きまして、インダストリーの売上高は501億増の4,199億、営業損益が75億増の343億です。

これも4部門あり、全ての部門で増収増益でした。

オートメーション部門ではファクトリーオートメーションのコンポーネント、低圧インバーター等々が生産増を主因に売上・損益ともに前年を上回っています。

それから社会ソリューション、これも大幅に増収、利益も増加しており、原子力関連機器、放射線機器の増加で前年を上回りました。

三つ目は設備工事ですが、これも大幅に増収、利益も増加、ということで空調設備工事の大口案件を主因としてプラスに推移しました。

ITソリューションにつきましては、増収ですが損益は前年並みでして、大口案件の増加で増収ですが、損益的には案件差でイーブンでした。



# 通期 セグメント別概況③ (対前年)

(単位：億円)

		2022年度	2023年度	増減	概況												
半 導 体	売上高	2,062	2,280	218 +95*	第4四半期において部材調達影響による生産減及び売上減があったものの、電動車（xEV）向けパワー半導体の需要拡大により、売上高は前期を上回りました。営業損益は、パワー半導体の生産能力増強に係る費用の増加、原材料価格の高騰があったものの、売上高の増加により、前期を上回りました。												
	営業損益	322	362	40 +26*													
					<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2022年度</th> <th>2023年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>産業</td> <td>1,060</td> <td>1,024</td> <td>-36</td> </tr> <tr> <td>電装</td> <td>1,002</td> <td>1,256</td> <td>254</td> </tr> </tbody> </table>		2022年度	2023年度	増減	産業	1,060	1,024	-36	電装	1,002	1,256	254
	2022年度	2023年度	増減														
産業	1,060	1,024	-36														
電装	1,002	1,256	254														
食 品 流 通	売上高	953	1,073	120	自販機 増収増益（6%増収） 国内の需要拡大に加え、原価低減の推進等により、売上高、営業損益ともに前期を上回りました。												
	営業損益	44	88	45	店舗流通 増収増益（19%増収） コンビニエンスストア向け店舗設備機器の改装需要拡大に加え、カウンター機材の大口案件増加により、売上高、営業損益ともに前期を上回りました。												
					*為替影響												

半導体部門は売上高は218億増の2,280億、営業損益が40億増の362億になりました。

第4四半期に一部の部材調達メーカーの影響で、部材が調達できないという状況がひと月、ふた月続きまして、それにより生産減、売上および損益減となりました。

また、生産能力増強に伴い資本費の増加、原材料価格の高騰がありましたが、売上の増加あるいはコストダウンで、損益的には対前年プラスになっております。

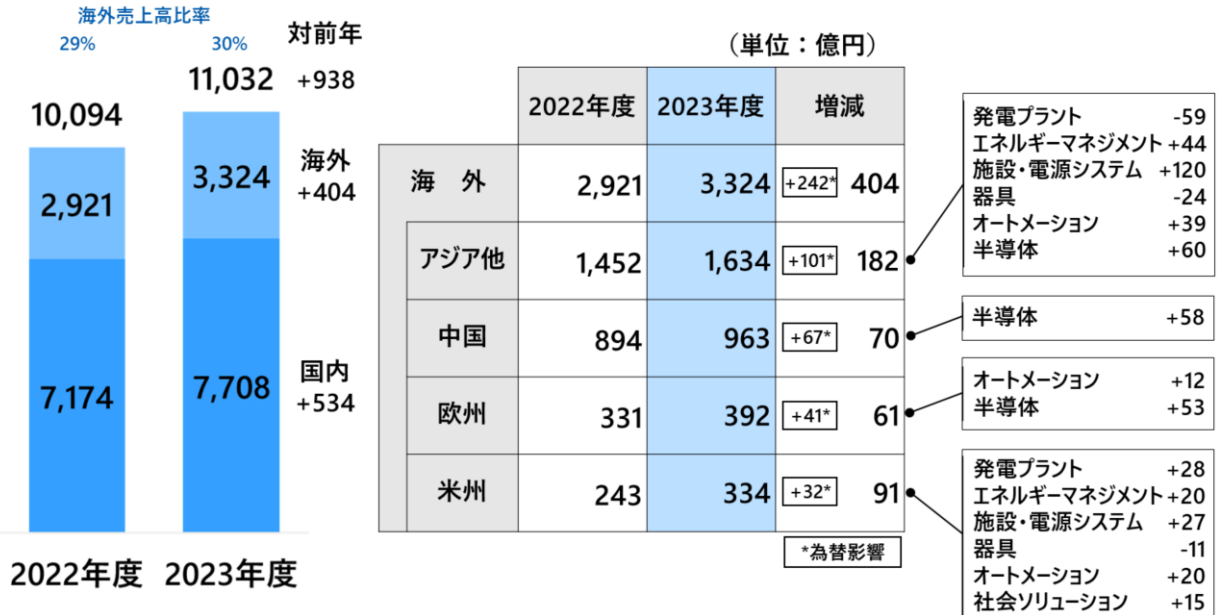
産業分野と電装分野の売上の表を載せてありますが、産業分野は若干の売上減で1,024億、電装分野は大幅増で254億増の1,256億でした。

損益的には、電装分野がけん引しました。食品流通は、売上は120億増の1,073億、営業損益が45億増の88億でした。

自販機分野、ここは主に国内のお客様の需要拡大と原価低減の推進もあり、前期を上回りました。22年度、23年度ともに中国のお客様の影響で、それぞれ20数億円のマイナスの特殊要因が入っております。

店舗流通もコンビニエンスストア向けの改装案件、カウンター商材の大口案件の増があり、前期を上回りました。

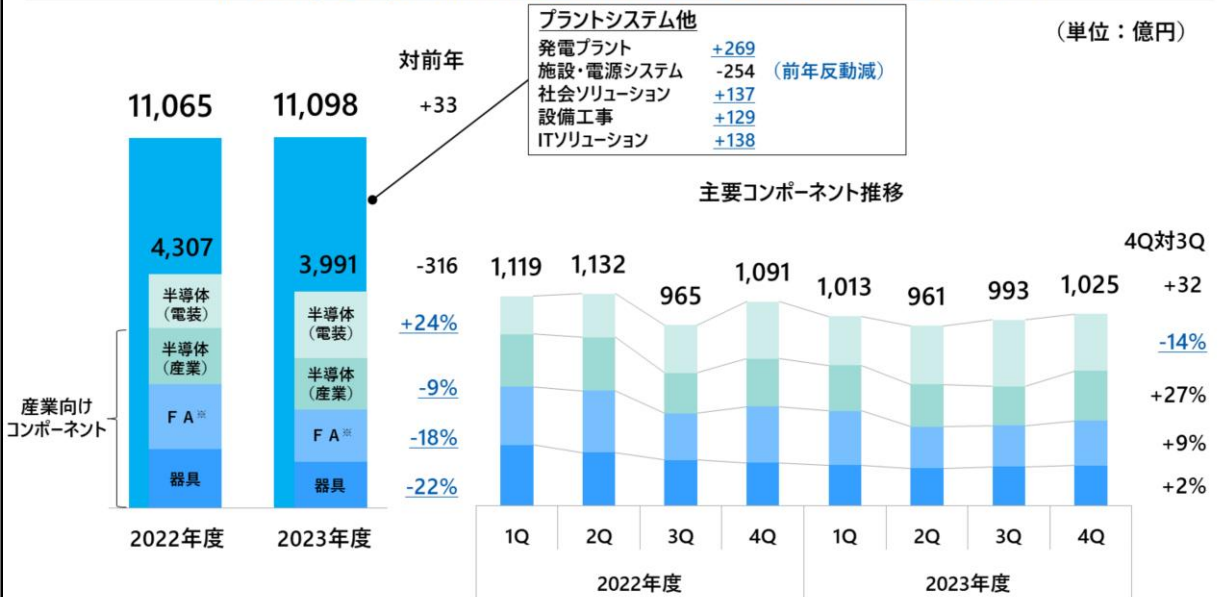
アジアを中心に全エリアで増収



※2022年度実績は、2023年度の旧発電プラントの事業組替の数値を反映しています。

次に地域別の売上高を前年と比較します。  
 海外で404億増の3,324億、国内で534億増の7,708億ということになりました。  
 海外の404億の増は主にアジア、その他地域も増加していますが、中国は為替の影響を除けばほぼ前年並みということで中国の市況の悪化がここに反映されております。  
 アジアで182億増、欧州で61億増、米州で91億増という状況になっております。

産業向けコンポーネントが減少。半導体(電装)、プラントシステム案件が大幅に増加  
半導体(電装)は部材調達影響による受注延伸が4Qに発生



※FA：低圧インバータ、回転機、FAコンポーネント、計測機器  
 ※2022年度実績は、2023年度の旧発電プラントの事業組替を反映しています。

次に受注の動向ですが、2023年度は1兆1098億で、前年に対して33億の受注増でした。

コンポーネントは前年に比べて316億のマイナスで3,991億でした。一方プラントシステムでは受注増になっています。

半導体の電装は24%の対前年増、一方半導体の産業はマイナスの9%、ファクトリーオートメーション関係については18%のマイナス、器具分野で22%のマイナスということになります。四半期ベースで22年と23年度の比較をしております。

一番右に4Q対3Qを載せてありますが、半導体の産業は27%の増、ファクトリーオートメーション、器具も3Qから4Qがプラスですが、半導体の電装はマイナス14%、先ほども申し上げた通り、一部の部材メーカーの供給ストップにより受注・売上・損益に響いたという状況です。

## 2. 2023年度 実績 (対1/31予想)

次に1月31日予想との比較です。

対1/31予想は全セグメントで増収増益

（単位：億円）

	1/31予想	実績	増減	
売上高	10,700	11,032	+150*	332
営業損益	1,000	1,061	+19*	61
営業利益率	9.3%	9.6%	0.3%	
経常損益	990	1,078	88	
親会社株主に帰属する 当期純損益	680	754	74	

	1/31予想		実績		増減			
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益		
エネルギー	3,310	263	3,428	301	+25*	118	+1*	38
インダストリー	4,100	329	4,199	343	+52*	99	+5*	14
半導体	2,240	357	2,280	362	+71*	40	+14*	5
食品流通	1,040	77	1,073	88		33		11
その他	610	42	632	43		22		1
消去または全社	-600	-68	-579	-76		21		-8
合計	10,700	1,000	11,032	1,061		332		61

\*為替影響

売上高は332億増。営業損益が61億増。損益率も0.3%アップ。経常損益が88億増、当期純損益が74億増で、予想に対して大幅プラスでまとめることができました。

事業部門別に見ても、全ての分野で予想を上回り、エネルギー分野で売上118億増、営業損益38億増、インダストリーで売上99億増、営業損益14億増、半導体が売上40億増で、営業損益5億増、食品流通が売上増33億、営業損益11億増ということで、想定よりも良い形でまとめることができました。

### 3. 貸借対照表 キャッシュ・フロー計算書

# 年度末 貸借対照表 (対前年)

資産の部	23/3/31	24/3/31	増減
現金及び預金	847	662	-185
売上債権	3,885	4,301	416
棚卸資産	1,987	2,261	274
その他	417	406	-10
流動資産 計	7,136	7,631	495
有形固定資産	2,839	3,115	275
無形固定資産	240	255	14
投資その他の資産	1,600	1,711	111
固定資産 計	4,679	5,081	401
繰延資産	1	0	-0
資産 合計	11,816	12,712	896

ROE	12.4%	13.5%	1.1%
ROIC	10.2%	11.5%	1.3%
自己資本比率	43.8%	47.4%	3.6%
ネット有利子負債※1	991	974	-17
ネットD/Eレシオ※2	0.2倍	0.2倍	-0.0倍

(単位: 億円)

負債・純資産の部	23/3/31	24/3/31	増減
買入債務	2,016	2,074	58
有利子負債	1,833	1,629	-204
その他負債	2,246	2,394	148
負債 合計	6,095	6,097	2
資本金	476	476	-
資本剰余金	460	460	-
利益剰余金	3,649	4,231	582
自己株式	-74	-74	-0
株主資本	4,511	5,093	582
その他の包括利益累計額	660	932	272
非支配株主持分	550	590	40
純資産 合計	5,721	6,615	894
負債・純資産 合計	11,816	12,712	896

※1 ネット有利子負債 : 有利子負債 - 現金及び現金同等物  
 ※2 ネットD/Eレシオ : ネット有利子負債 ÷ 自己資本

続きましてバランスシート、22年度末と23年度末の比較です。  
 事業の拡大、売上の拡大により売上債権と棚卸資産が増。半導体を主体に固定資産が増となり、資産の合計は896億増の1兆2,712億でした。  
 また現金を185億減らし、有利子負債204億の削減に充てました。それによりネット有利子負債が17億減の974億となり、ネットD/Eレシオが0.2倍を切りました。  
 ROEが13.5%、ROICが11.5%、自己資本比率が47.4%と対前年を上回り、財務体質を強化しました。

## キャッシュ・フロー計算書（対前年）

（単位：億円）

	2022年度	2023年度
I 営業活動によるキャッシュフロー	1,162	849
II 投資活動によるキャッシュフロー	-495	-624
I + II フリー・キャッシュ・フロー（FCF）	667	224
III 財務活動によるキャッシュフロー	-772	-459
IV 現金及び現金同等物の期末残高	842	655

続きましてキャッシュフローです。前年比で営業活動によるキャッシュフローが849億と前年に対して313億のマイナスです。

内部留保は200億増えましたが、23年度の本掛金の支払いが大きく増え資金が500億程度前年に比べてマイナスになりました。

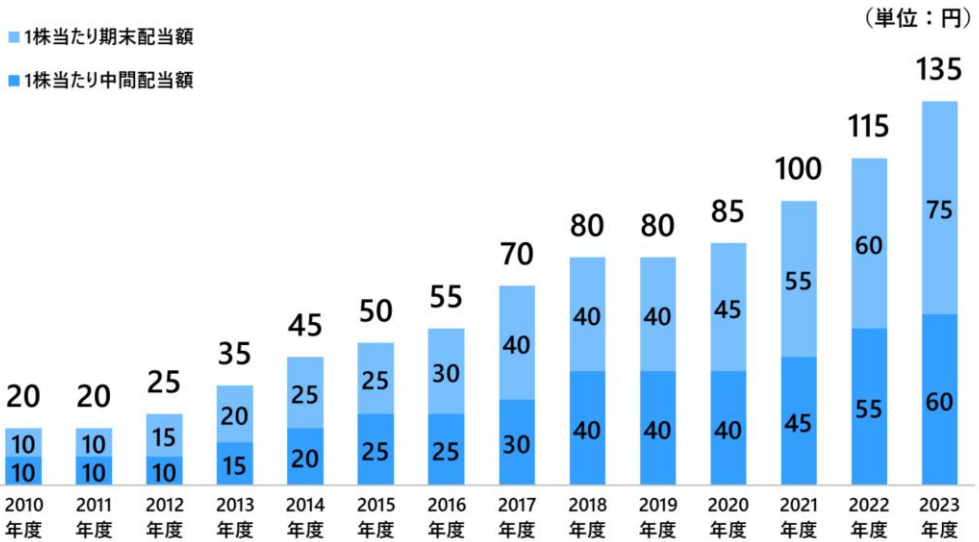
投資活動によるキャッシュフローは624億減で半導体を主体とした投資、政策保有株式の売却減で、対前年129億のマイナスでした。フリーキャッシュフローは224億でした。



## 4. 剰余金の配当

最後に剰余金の配当です。

## 期末配当は1株あたり75円に決定



配当性向	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	18.9%	24.2%	13.6%	25.5%	23.0%	23.3%	19.2%	26.5%	28.4%	39.7%	29.0%	24.3%	26.8%	25.6%

※2010年度から2018年度上期まで(株式併合前)は5株当たり配当額

期末配当は一株当たり75円ということで、前年同期に比べて15円の増になります。

年間で見ますと135円で、前年に対して20円の増。基本的には安定的継続的に配当を行っていく方針で、さらに24年度以降も収益率を高め、増配を続けていきたいと考えております。

私からは以上でございます。

## 5. 補足資料

器具受注高	4Q (対3Q)	4Q (対前年)	通期 (対前年)
全体	+2%	-7%	-22%
国内	-5%	-15%	-27%
海外	+22%	+19%	-6%

低圧インバータ受注高	4Q (対3Q)	4Q (対前年)	通期 (対前年)
全体	+29%	-21%	-35%
国内	-6%	-38%	-45%
海外	+46%	-14%	-29%

半導体受注高	4Q (対3Q)	4Q (対前年)	通期 (対前年)
全体	+1%	+2%	+7%
産業	+27%	+5%	-9%
電装	-14%	0%	+24%

自販機受注高	4Q (対3Q)	4Q (対前年)	通期 (対前年)
全体	+9%	-4%	+5%

1. 本資料は法律に基づく監査手続の対象外であり、本説明会の時点において、法律に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。
2. 本資料及び本説明会に含まれる予想値及び将来の見通しに関する記述・言明は、弊社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性及び事業運営や内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
3. 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、弊社の株式の売買を勧誘するものではありません。
4. 目的を問わず、本資料を無断で引用または複製することを禁じます。